

って変化し、それらは主波長よりも刺激純度ことに視感反射率への影響が大であり、光沢は色によって影響されるものと考えられた。

そこで今回は光沢への影響のある色の異なる市販試料を増すとともに、同一材料を数種の色にそれぞれ明度段階別に染色して、光沢の官能検査を試み、それに対応する光学的測定的光沢度の求め方を検討し、被服地の光沢と色との関連性を追求する。

2. 光沢の官能検査には一対比較法を用い、Schefféの方法の変形により尺度構成を行なった。色は分光光度計により測定し、分光曲線より3刺激値を算出し、光沢の測定には変角光度計GP-3型により光量分布曲線を求めた。以上の光沢の官能検査結果と色の3刺激値と光沢測定結果との三者より相関性を検討した。

3. その結果、色のある被服地の光沢は官能検査結果と3刺激値 Y との間の相関性をもっとも高く、また Y (明度) の高いものが光沢感強いことが認められた。この事実にもとづき官能検査にあらわれた光沢感に対応する光沢度の求め方を考察した。